



2006~2007年度
国際ロータリーのテーマ
率先しよう
2006~2007年度
ウィリアム・ヒル・ボイド

Weekly Report

創 立:1980年(昭和55年)1月10日
会 長:遠山 義郎
幹 事:天野 正明
会報委員長:稲垣 豊
例 会 日:毎週木曜日 PM12:30~
会 場:ヒルトン名古屋
事 務 局:460-0008
名古屋市中区栄1丁目33
ヒルトン名古屋910号
T E L:052-211-3803
F A X:052-211-2623
M A I L:2760nagoya@mizuho.rc.jp
U R L:http://www.mizuho.rc.jp/

第1306回例会

世界理解月間

2007年2月7日(水) 晴 第28回

2006~2007年度RI第2760地区
西名古屋分区 INTERCITY MEETING
会場:名古屋マリオットアソシアホテル

第1部 式典並びに勉強会 16階「アイリス」

司 会:(長次 修さん)
点 鐘:片山主水西名古屋分区ガバナー補佐
齊 唱:「君が代」「奉仕の理想」

開会並びに歓迎のこたば

名古屋東南RC:大西弘高会長

西名古屋分区のI.M.に多くの方にご参加いただきありがとうございました。当クラブは約1年前から吉水大会実行委員長を中心として、会員73名全員が参加してこのI.M.を計画して参りました。

今年度の地区運営方針のメインテーマは「原点回帰」であります。昔、ロータリークラブは非常に権威あるクラブだったのですが、今は若干その魅力も薄れてきているのではということもありまして、今日は「原点回帰」を皆様方に再認識して頂くための会でもあります。この大会が参加する皆様にとって「ロータリーがすばらしい」ということを再認識する大会になってくれれば幸いです。そのことを切に願ひまして、皆様方への歓迎の言葉とさせていただきます。

参加クラブの紹介:名古屋東南RC 成瀬和男幹事

特別出席者紹介:片山主水西名古屋分区ガバナー補佐

ガバナー挨拶

国際ロータリー第2760地区:斎藤直美ガバナー

I.M.の開催おめでとうございます。I.M.は万博の開催で一時的に休みをさせていただきました。その時に全国で「来年もI.M.をやりますか?テーマは何ですか?」というアンケート調査を行いました。各地区のガバナーからの返事には、それぞれの地区の素晴らしいテーマが列挙されており、大変勇気づけられました。ガバナー補佐のご支援の下にI.M.の再開ができました。再開おめでとうございます。

パネルディスカッション

テ マ:「原点回帰」
パネラー:片山主水西名古屋分区ガバナー補佐
:加納 泉バスターガバナー
:岡部快圓バスターガバナー

片山主水西名古屋分区ガバナー補佐

本日はお忙しい中お集まり頂き、誠に有難うございます。今こうしてお集まり頂いておりますI.M.は以前、I.D.M.と言われ、現在と同じく親睦と勉強のためでございました。そしていつ頃からか、分区代理の最大の行事であったと記憶しております。そしてI.D.M.が変化しまして現在のI.M.となりました。そしてご存じの様に分区代理もガバナー補佐となり、現在に至っております。ただそこで一つだけ記憶頂きたいことは、分区代理が主催になった時、ガバナーから権限を委譲され、I.M.を主催いたしました。それを今思いますと、現在ニューリーダーシッププランというので、ガバナー

の職務が多くなった訳ですが、実を言いますと分区代理の頃からそういうことの一部はすでに行われていたということでもあります。お手元のパンフレットを見ますと、表紙の上の部分に西名古屋分区大会と記載されております。私はI.M.は分区大会と位置付けるべきであると思っております。これは分区内各クラブの合同例会であり、分区のための大会だと思っております。そんな分区大会に皆様、ご出席を頂いているという訳であります。

分区関係のご報告を申し上げます。ガバナーからもお褒めの言葉をいただいておりますが、2760地区における西名古屋分区の活躍ぶりが凝縮されておりますのが、地区の委員会の委員長がどれだけ多く出向しているかと言うことで書かれると思います。現在地区に81クラブありますが、分区は8つ、地区の委員会は30ぐらあります。そのうち委員長は11人と地区代表が1人いらっしゃいます。本来であれば、平均的に行けば4人ぐらいであるのに、12人も地区において活躍しております。

一昨日、東名古屋分区のI.M.がございました。ご招待を受けて伺いましたが、総会員数が689名、出席登録人数が626名で、出席登録率は90.8%で、大変驚きました。西名古屋分区と比較してみると、本日の638名の登録がありました。総会員数は12月31日で約1,100名です。そうしますと約半数の人しか出席していないということになります。こうした部分につきましては、東名古屋分区に学ぶべき所があるのかと思います。もう一つ東名古屋分区I.M.についてご報告いたします。元分区代表や元ガバナー補佐の方々が11名出席されており、それは賑やかな会合でした。当分区では5年間さかのぼりまして出席頂いております。年度当初に名古屋城開府築城400年の文化事業に、当西名古屋分区と東名古屋分区合同で賛助・寄付する事を計画いたしました。東名古屋分区のガバナー補佐と名古屋市へ行って参りました。そうしましたら「寄付は急がない様に」とのお話でした。心の底から本当に賛同したいという気運が高まってきた時に、寄付を受けたいとおっしゃいました。それまでの間、市長や秘書を始め関係者が、クラブから要請があれば必ずお受けして卓話などしますとおっしゃいました。我が東南RCでも、卓話をお願いした所、すぐに来て頂けて30分間本丸御殿と名古屋城のお話をされました。以上が当地区に関する報告となります。

RCは100年が経ちました。100周年を迎えて10年ほど経った辺りから会員数の減少など、下降気味になって参りました。そういうことを一番感じておられるのが斎藤直美ガバナーです。主な原因はバブルの崩壊から来る経済的な変化であると思われませんが、そればかりではなく、ロータリー自体に何か原因があるのではないかという風に思った訳であります。ガバナーは原点回帰というテーマを掲げまして、クラブの中でロータリーの本を広げて、楽しく学ぼうとおっしゃっております。今回のI.M.はその原点の最たるものであろうと思われまして。このI.M.の中で原点という言葉ターゲットにして、会員同士のコミュニケーションをして頂きたいと思ひます。

加納 泉バスターガバナー

「ロータリーは何?」と何千人ものロータリアンに尋ねたら、何千通りもの答えが返ってくると思います。しかし、もしロータリーが寛容の精神でより他の人の良さを認め、より他の人と親しく交わりうとして助け合おうとするならば、そして人生の美しさと楽しさを乗算し、これを広げようとするならば、それが我々の求めるロータリーそのものであって、それ以外にロータリーは何を求め

るものでありましょか?というのにはポール・ハリスの残した言葉でありま。今日のテーマは「BACK TO BASIC～原点復帰～」であります。ロータリーは創立以来100年が経ち、この間に多くのことが変わり、また進んで参りました。今日もクラブリーダーシッププランというものが始まるようになっております。これはあくまでもオプションのプランですから、採用するかしないかは各クラブの自由裁量権の中にあるとすることを前提に入れておいて頂きたいと思ひます。クラブリーダーシッププランの要点は、次の4項目であります。

- 1.メンバーシッププランであり、会員増強を積極的に行う
- 2.公共に対するイメージアップ、すなわち各クラブの広報活動を積極的に行う
- 3.ロータリー財団への寄与率を高めましよう
- 4.ロータリーの種々のプロジェクトについて、各クラブで

よく考えて、それを選んで実行する

従来ロータリーには4大奉仕があり、そこにロータリーの哲学があり、ロータリーが非常に発展してきた基本を成していたのであります。そこへきて、この新しいプランの様な変更は、ロータリーを逆に弱くするのではないかと、心配する所であります。ロータリーの組織を運営するやり方は、間違っているのではないかと、創立当時の基本に戻ってもう一度考えてみるべき時代であるということも考えるのであります。特に注目したいのは、新しいクラブリーダーシッププランの中には、職業奉仕については何も触れておりません。職業奉仕はロータリーにとって、最も大切なものです。我々がいつの例会でも4つのテストを唱和し、実行しようと思ひかけて参りました。職業における倫理性を高めることが、我々ロータリアンが勉強すべきことなのであります。倫理的水準が下がることが、若い人々にロータリーの魅力を失わせめているのではないかと憂う所でございます。世の中の人達から、ロータリアンに対する尊敬の念を高めることがとても大切だと思ひております。例えばカンボジアにおける地雷の撤去や、ポリオ撲滅のキャンペーンであるとか、インドネシアの津波に対する救済など、素晴らしい貢献を世界に示して参りました。今ロータリーは第2の世紀に入って参りましたが、ロータリーの持つエネルギーと、信念を活性化して、ロータリーバッヂを付けることに誇りを持って、人類に対して何か良いことが全てであるという責任感を、改めて自覚する時ではないかと思ひるのであります。

ここでロータリーの基本について考えてみたいと思ひます。人のために役立つと言うことは、英語で「SERVICE」と表現してあります。ロータリーはサービスを以て、人間活動の基本的観念にしたという運動であって、これは大変重要なポイントであります。「SERVICE」とは思いやりの精神であって、身近な所、たとえば家庭や職場、地域社会に対するサービスも行いますし、発展途上国の社会に対するサービスも否定するものではありません。ロータリアン同士の友情と、それからこのサービスの観念、この2点がロータリーの重要な基本的事項なのであります。次にロータリーの目的について考えて見たいと思ひます。ロータリー発足以来100年、社会奉仕や国際奉仕の分野で、多くの成果を挙げて参りました。特に1985年以来取り組んで参りましたポリオ撲滅キャンペーンは、人類に対して大なる貢献を尽くして参りました。しかし、世の中にはロータリーと同じく、善意に基づく慈善団体や、奉仕団体は他にも多く活躍してあります。しかし、その様な団体の中には、ロータリーは他の団体とは画然とした区別を持ってあります。それはロータリーの本質、原点というべきものであって、それは「OBJECT OF ROTARY」の目的の中に明確に示されてあります。ロータリーには有益な事業の基礎として、奉仕の理想を鼓吹し、育成するという実際ただ一つの目的であります。すなわち、自分の職業の倫理性を高め、それを通じて世の中に貢献することだと思ひます。ポール・ハリスは「ロータリーは古くから存在する道徳律に、現代社会、職業生活における実践に他ならぬ」と言い残してあります。

ロータリーのバックボーン、スピリッツというものは、決議23-34に代表されるといわれてあります。この決議23-34というのは、1923年(大正12年)の国際大会で採決された、奉仕に対する方針を示したものであります。その原文を一部読んでみますと、「ロータリーは、基本的には、一つの人生哲学であり、それは利己的な欲求と義務およびこれに伴う他人のために奉仕したいという感情とのあいだに常に存在する矛盾を和らげようとするものである。」この哲学は超我の奉仕の哲学であり、最も良く奉仕するもの、最も多く報いられるという実践原理に基づくものである。というのが決議23-34であり、特に日本のロータリアンはこの決議23-34をロータリーの精神として大事にしてきたのであります。

ロータリーとは、この奉仕の哲学を取り入れ、次の4つのことを実行しようとする事を目指している人々の集まりであると思ひます。先ず一つ目は、奉仕の理論は職業及び人生における成功と幸福の眞の基礎であることをよく勉強し意識すること、であります。二つ目は、個人の間においても、また地域社会に対しても、その実際例を示すことだと言われてあります。三つ目は、各個人がこの奉仕の理論を職業並びに日常生活において学ぶだけでなく、実践をすることでありま。そして四つ目は、大いにこの教えを説き、その実際例を示すことによって、ロータリアン以外の人々にも受入れられるように推奨すべきである、ということ。私はロータリーに対して、ガバナー時代からこのように申して参りました。「あなたがロータリアンになって、あなたの奥様または家族があなたを尊敬してくれる様になったならば、あなたは立派なロータリアンになられたのでしょうか。」というのが私の信条でございます。

岡部快圓バストガバナー

先ほど、加納先生から非常に高邁なロータリーのポリシーについてお話して頂きましたが、これは変わっていない点だと思ひます。そして今、変わらなければいけない点もある訳でございます。このクラブリーダーシッププランは、各クラブで話題になってありますが、誤解をされている所が非常に多いと思ひます。現在CLP(クラブリーダーシッププラン)を各クラブで来年度採用されるご予定で準備を進めていらっしゃるクラブもあるかと思ひます。12月のロータリーの友に、RI会長と神崎バストガバナーの対談が掲載されておりました。そこでRI会長が「日本のロータリアンの皆さんに、CLPについて非常に誤解がある。日本のロータリアンの方々から意見を聞いて、CLPのいろいろな資料をみていたら、誤解を受ける様な内容があるので、いつ出来るかは言えませんが、訂正しようと思ひている。」という話がでておりました。最近よくロータリーが変わったといわれます。RI会長は毎年代わります。それに伴いターゲットも変わります。RI会長の年度の業績として、どれだけ会員が増えたか、あるいはどんな奉仕をしたかということが実際目に見える数字となって現れる訳です。しかし、ロータリーのポリシーはいくら説いても数字として表れません。ですからRIとしてはより明確なターゲットを優先してしまう訳です。ですからロータリーのポリシーはなくなった訳ではなく、表に現れてこないだけなのです。今回のCLPも実は各クラブが活性化するために今まではたくさんの委員会がありました。そうしますとクラブの管理に人員と時間がかかりま。そうしますと奉仕にかかる時間が少なくなってしまひます。ですからクラブの管理を出来るだけ簡素化して、その余力を奉仕に回して下さい。ということ。ですから最初はDLP(地区リーダーシッププラン)が出来ました。片山ガバナー補佐が地区幹事をされていた時に、DLPが試験的に始まりました。今回のCLPというのは、クラブの管理を簡素化するものです。それにより多くの人員と時間を奉仕活動に回すということが基本原則でございます。ですから日本のロータリーはRIから指定が来ますと、非常に皆さん真面目ですからすぐに取り上げようとします。ですから今回も、標準の細則が変更になりました。それを全てやるべきものだと考えられますと、4大奉仕だったのが奉仕プロジェクト委員会にまとまってしまう、おかしな事になってしまひます。それを取り上げる時に、各クラブで奉仕プロジェクト委員会の変わりに国際奉仕、社会奉仕、職業奉仕をして頂ければ結構です。ロータリーは100年経ちました。ロータリーの管理について世界中の各クラブが検討した結果、やはりもっと簡素化した方がいいということで出来た、非常に合理的な方法でございます。ですからこれは皆さん方のクラブにおいて、1度CLPをよく勉強して頂きたいと思ひます。そして自分のクラブを活性化するにはどうすればいいか、このままでよいということであれば変える必要はありません。しかし、CLPの管理組織を取り入れたらもっと簡素化できるのではないかと思ひます。ですから皆さんのクラブで、どういった委員会があるか検討してみして下さい。全て取り入れるのが正解ではなく、皆さんのクラブにあった細則を作って下さい。そうして皆さんのクラブの活性化につなげて下さい。実は私どもの大須クラブが、CLPを取り入れてありますが、現在の状況をご紹介します。2006年3月16日に大須ロータリーに於いてCLPの説明を行いました。そして5月の理事会に於いて、会長エレクトより、次年度採用するためにCLP委員会を立ち上げ、次年度クラブ奉仕委員長が主導して委員会を結成いたしました。そして5月29日に第1回のCLP委員会を開き、その後4回の委員会を経て、最終的に8月中に細則と新組織をCLP委員会で決定いたしました。8月31日の例会で、CLP委員会委員長から各フォーラムで説明を行いました。細則変更の通知を総会10日前にメンバーに通知いたしました。10月

12日に臨時総会を行い、CLPを承認いたしました。新細則に則り、役員・理事の選任を行い、12月7日の年次総会で、発表を致しました。こういった経緯でCLPを採用した訳でございます。しかし大須クラブにおきましても、先ほど奉仕プロジェクト委員会は1つではなく、社会奉仕、職業奉仕、国際奉仕のそれぞれの委員会は残り、他の委員会を統括して8委員会にした訳です。それまでは23委員会ございました。難しいことではございませんので、一度ご検討ください。もし皆様方で分からないことがあれば、大須RCの事務局までご連絡ください。今までの経緯をFAXでお送りいたします。クラブを活性化するために、CLPを上手に取り入れて進めて頂きたいと思っております。ただ、今後RIから来るいろいろな書類は全てCLPを通しております。ですからもうじき行われる来年度の会長研修においても、すべてCLPを通した資料になっております。ですからクラブで取り入れる取り入れないは別にして、まず勉強して頂かないと今後RIから来る書類に対して理解することが難しくなると思っておりますので、ぜひとも勉強して頂きたいと思っております。後ほど質疑応答がありますので、CLPについてのご説明を致します。

片山主水西名古屋分区ガバナー補佐

奉仕プロジェクト委員会、あるいはクラブの組織運営委員会などの5つの名称は、地区として統一して使用しなくても良いのでしょうか？

岡部快圓パストガバナー

それはかまわないと思っております。例えばこれを採用しないクラブがありましても、名称はそのままです。ですからどうしてもこの名称にしなくてはならないということではありません。

片山主水西名古屋分区ガバナー補佐

皆さんの中で「これは原点である」というご意見をお持ちの方はいらっしゃるでしょうか？

加納 泉パストガバナー

今ロータリーが一番問題となっているのが、世界的に会員が減っていることで、日本も同様です。なぜ減っているのかというと、若い人が入ってこないからです。なぜ若い人が入ってこないかということ、RCはめんどくさいと思われている様です。私としてはRCはもっとシンプルにすべきだと思っております。

名古屋みなとRC:野村さん

クラブの委員会を少なくするという事は、非常に大事なことだと思っております。地区協議会の時にいろいろな勉強会がありますが、その時に我々のクラブが奉仕委員会を一つにまとめ、その下に自分たちで決めて、2つの関連委員会を設定したとして、勉強会において参加できないものがでてくる可能性があると思うのですが、それは構わないということになるのでしょうか？

岡部快圓パストガバナー

そうではなく、例えば奉仕プロジェクト委員会の下に小委員会が作られたとしても、委員会の委員で手分けをして勉強会に参加して頂ければいいかと思っております。地区の委員会構成を今の様な同じ構成にしてしまうと、それを取り入れる所と取り入れないところがあるわけです。そうしますと、取り上げないクラブに対してはどういった対応を取るのか、ということが問題になってきます。ですから今の状況で各委員が手分けをして頂ければいいのではないかと思います。皆さん、いいアイデアを出して頂いて、柔軟に、各クラブにあった物を作って頂きたいと思っております。

片山主水西名古屋分区ガバナー補佐

私はガバナー公式訪問の方式について意見があります。一定期間その地区に定着していた考え方や組織なども原点であると考えられると思うのですが、ガバナー公式訪問の形式が、何十年間変わらず、ガバナーだけでいくつもあるクラブを訪問、懇談をするというのは大変なことでありました。それが地区のニューリーダーシッププランを取り入れ、合同例会という方式を取れば、ガバナーの負担は軽減されるのではないかと採用されました。もう一つはガバナー補佐がクラブ協議会をするということです。反省しますことは、何十年もの間、戸別訪問、協議会をガバナーの職務として定着しておりましたものを、急激に変えすぎたのではないかと考えております。ではどうするのかと申しますと、現在地区内に81クラブありますが、そのうちの4分の1程度はガバナーが訪問をし、クラブ協議会もされたらどうかと思っております。



加納 泉パストガバナー

今、岡部さんが発表されたニュー・リーダーシップ・プランというのは、会員数の少ないクラブのための、RIのサジェスションであると思っております。西名古屋分区の様に、運営がスムーズにおこなわれているクラブは、あえて採用しなくてもいい所もあります。ですから、RIが始動しても、それを無理に採用する必要はないと思っております。次の地区協議会では、江崎ガバナーエレクトはニューリーダーシップの事も多く話されると思いますが、これを受けるかどうかは各クラブでお考えになっても、決して悪くはないと思っております。斎藤ガバナーが原点回帰ということをいわれている一番大きな問題を、私は次の様に考えます。私がRCに入った頃、各クラブが自主的に奉仕をするということを強調されており、全体で動くということはロータリーの本意ではないと基本的にあったようです。RIへの寄付も、7割が3年後には各クラブに還元されておりましたが、現在では半分還ってくるかという所です。ポリオを例に取りますと、ポリオを撲滅することは世界的にみますと非常に大きな貢献であります。これは一國でも出来ない様な大事業です。RCという一団体がムリをしてまでやることに問題があるのではと思っております。昔は各クラブで自由に決めていたものが、今日あまりにもRIに左右されすぎている様に思え、昔からのメンバーとしましては原点回帰の思いが強くある訳です。RCはもっと各クラブが自由に動けるようになるところが、私が思います原点回帰であります。

岡部快圓パストガバナー

ただいま加納パストガバナーからお話しがありましたが、おっしゃるとおりクラブが基本であると思っております。DLPの場合は、RIの組織として採用するのはやむを得ないことだと思っております。しかしCLPについては、各クラブの自治権で決める事が出来、大切なことだと思っております。RCと他の奉仕クラブとの相違点は、職業奉仕だと思っております。各職業を代表される方が入会されており、各自の職業の倫理を高め、自分たちの組合の倫理も高めていく。そして自分が高い倫理によっていい仕事をすれば、会員の皆さんにノウハウを教える、というこの職業奉仕がRCの根本だと思っております。ではその職業奉仕がなくなってしまったかということではないと思っております。ただ残念なのは、昨今、企業の不祥事が相次いでおりますが、ロータリーの「4つのテスト」を自分の行動などを当てはめてみれば、そういった不祥事は起こらないはずで、「自分の職業倫理を高く設定し、もし自分がそれに会わなくなってきたら、倫理を下げろのではなく、自分の行動をその倫理に合う様に行動して欲しい。」とおっしゃった方もいらっしゃいました。先ほど加納先生のお話にもありましたが「人から尊敬される人」要するに「何をしたら」ではなく、「どういう人を育てたら」というのがロータリーの原点ではないかと思う訳であります。

斎藤直美ガバナー

私が「原点回帰」を言い出したのは、数年前から各クラブの会長が、クラブ運営に苦勞されているなど感じたからであります。私がクラブに入った頃はもっと気楽で、先輩に言われたこともしっかりと行って参りました。私はロータリーが緩すぎるのがこういう事態を招いてしまったのだと思っております。公式訪問をして、各クラブの長老の方達に口を酸っぱくして、頭を下げてお願いしていることがあります。「嫌われるジジイになれ」です。私が入会した頃は、明治生まれの素晴らしいロータリアンに叱られ、いろいろご指導を賜りました。今現在のそうした流れの中で、クラブの管理・運営のずさんさが例えばCLPで直るのだろうかということ、私は直らないと思っております。なぜそう思うかと申しますと、そういったプランには「ハート」がありません。ハートのある素晴らしいロータリアンを育てるシステムを作らない

懇親会スケジュール

18:10 開宴	合唱 「わが歌」 「いざ起て戦人よ」	名古屋東南RC 「メール・アカンターレ」
歓迎の言葉		名古屋東南RC I.M実行 副委員長 宮崎 薫さん
乾杯		
アトラクション 手に手つないで		THE PRESS ソングリーダー 熊谷多津旺さん
19:30 閉会のことば		西名古屋分区ガバナー補佐 片山 主水さん

出席報告

会員73名 出席39名 (出席計算人数53名)

出席率62.26%

2月 1日は補填により 98.11%

臨時例会変更のお知らせ

名古屋南		2/28(水)	3/7(水)	
名古屋北	2/23(金)		3/9(金)	
名古屋東			3/5(月)※	3/12(月)
名古屋守山	2/21(水)			
名古屋みなと				3/16(金)
名古屋東南	2/21(水)	2/28(水)		3/14(水)※
名古屋中		2/26(月)		
名古屋名東	2/20(火)			3/13(火)
名古屋名北	2/21(水)			
名古屋栄			3/5(月)◆	
名古屋名南	2/20(火)※	2/27(火)◇		
名古屋昭和			3/5(月)	3/12(月)
名古屋西南			3/8(木)	
名古屋錦	2/20(火)			
名古屋東山		3/1(木)		3/15(木)
名古屋葵	2/22(木)※	3/1(木)※		
尾張中央	2/21(水)			
豊山一城北		2/27(火)		

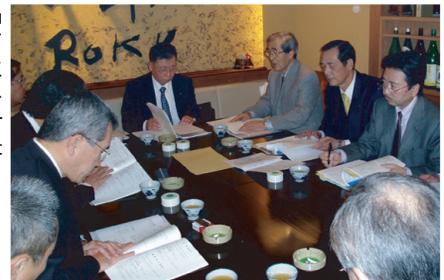
(注) ※は休会・その他理由につきビジター受付はありません。

◆はサイン受付時間が17:00～18:00となります。

◇はサイン受付時間が17:30～18:30となります。

新入会員研修会

2月1日(木)16時より新入会員研修会が開催されました。遠山会長、守谷R情報委員長をはじめとする9名より、新入会員の入山治樹さん、梅村昌孝さん、市岡正蔵さん、梅田朋嗣さんに対して、ロータリーの奉仕活動についての説明や質疑応答がなされました。



今週卓話

2月15日(木)

会員卓話: 森 恒夫さん

テ - マ: 「事業継承対策あれこれ」

次週行事・卓話

2月22日(木)

臨時クラブフォーラム

会員卓話: 伊藤 豪さん

テ - マ: 「環境汚染対策(電気メッキ業)」

限りは、いいクラブにはならないという風に思います。今度WCSでラオスに行きます。WCSの活動の中で、夜の宴会の際にメンバーに「こんな馬鹿なことをやるな」といいました。これは2760地区が20年かけて行ってきた、大変素晴らしい事業に対する感動であり、また、「これがロータリーであると思わないで欲しい」という気持ちの表れでもありました。原点はあくまでも、元の可能性が添えられました「23-34」の心です。今年度会長のビル・ボイド会長の師匠は、トーマス・ハロルド氏と言います。ハロルド氏は「23-34」が出来た時にRCに入会しております。ハロルド氏は「23-34」を50年メモしてきました。それが今でも使われているとボイド会長は主張しております。それほど「23-34」には、ロータリーとは、自分はどうするのかという問題と、クラブはどのようにトレーニングするのかという問題、様々な事が凝縮されております。私も「23-34」へ戻って下さいという思いがあります。それが私の「原点回帰」だと思います。CLPは各クラブが検証しながらゆっくり進めていけばいいですし、それに合わせて心の奉仕のトレーニングもして下さいというのが、次年度へ申し送る希望であります。



片山主水西名古屋分区ガバナー補佐

今のお話を聞いて、私もほぼそれに近いロータリー像を持っております。やはり基礎に親睦があり、その上に奉仕や自分自身の研鑽があると思います。今回は思った様に議論が展開しませんでした。各クラブに持ち帰って頂いて、この続きを議論して頂きたいと思えます。今日一日、お付き合い頂きありがとうございます。本日のI.Mの冊子に、「ロータリーに心を!あなたの心を!」-「ロータリーを心に!あなたの心に!」というサブタイトルを付けてあります。それは今日一日ロータリーに心を注いで頂きまして、そしてロータリーのことを少しでも理解できたと思えます。そしてその後、ロータリーを自分の心の中に取り入れ、未永く心の資産として頂きたいと思えます。そうしますと、我々が一体になれるのではないかと、そういう気が致します。そうすれば「我々が輝けばロータリーも輝く、ロータリーは我々と共にある」ということになるのであります。

謝辞:名古屋東南RC 吉水正博I.M.実行委員長

本日は多数のロータリアンにご参加いただき、盛大に開催できたことを大変喜ばしく思っております。心から厚く御礼申し上げます。今回のメインテーマ「原点回帰」について企画いたしましたところ、加納 泉、岡部快圓、両バスターガバナーにご参加いただき、今回の運びとなりました。ロータリーについて、今日は大変勉強になりました。意見が交錯いたしました。皆様に整理をして頂いて、クラブの更なる活力にしていだければと思えます。

次期ガバナー補佐紹介:片山主水西名古屋分区ガバナー補佐

次期ガバナー補佐挨拶:名古屋中RC 杉本仁至さん

名古屋中ロータリークラブの所属、株式会社杉本組の杉本仁至でございます。来年度、江崎ガバナーの下、ガバナー補佐として一生懸命頑張りたいと思えます。皆様方のご支援ご協力を心からお願い申し上げます。

次期I.Mホストクラブ紹介:片山主水西名古屋分区ガバナー補佐

次期I.Mホストクラブ会長挨拶:名古屋中RC 岡野剛久会長

昨年度11月に、2760地区の地区大会開催でホストクラブを仰せつかり、たくさんの皆様の登録とご出席に感謝しております。

次年度のIMIについても中ロータリークラブがホストをすることになっております。来年の2月18日の登録もよろしく願います。

閉会の言葉:名古屋東南RC 伊藤秀雄会長エレクト

東南の伊藤でございます。本当にお疲れ様でした。これにて閉会いたします。ありがとうございました。